

事業報告

<研修名>

平成30年度 第1回 大分県社会教育行政職員専門研修会

<開催日時>

平成30年9月12日(水) 10:00~16:00

<会場>

県立図書館 1階 第2・3研修室

<参加人数>

27名(12市町+県教育委員会社会教育行政職員)

<研修趣旨>

県下の生涯学習・社会教育の一層の振興を図るために、事業遂行の中核的役割を果たす県及び市町村の社会教育行政職員等を対象に、その資質・能力の向上に資する研修を実施する。

<研修内容>

【研修1】講義

「つながりを創る豊かな家庭教育支援を目指して～事業化に向けた視点～」

講師：九州女子大学 人間科学部長 教授 大島 まな 氏

子供の成長過程での欠損した体験を親以外の者が体験させ補うことから、「青少年の体験活動」に係る事業も家庭教育支援の側面を持つことの確認ができた。このことから、社会教育における各分野の事業も「何のために行うか」目的の再確認が重要であるということが共通理解できた。

【研修2】情報・意見交換

「今後の社会教育行政における家庭教育支援の方向性」

進行：学校・地域支援課 地域学習支援担当 主任社会教育主事 馬場 尚登

助言：九州女子大学 人間科学部長 教授 大島 まな 氏

大分大学高等教育開発センター 教授 岡田 正彦 氏

家庭教育支援における首長部局との連携が欠かせないこと、貧困等の深刻な問題についてはできることに限界がある教育では十分な対応ができないが、グレーゾーンにどこまで社会教育が手を伸ばせるかが課題であるとの示唆があった。

【研修3】「調査データの読み取り方と企画へのつなげ方」

～大分県の社会教育行政職員の生涯学習・社会教育に関する意識調査から～

講師：大分大学高等教育開発センター 教授 岡田 正彦 氏

「調査をしたら企画に生かせることを発見した」より「企画の改善にこのような取り組みが必要であり、その証拠として調査を実施」の方が有効であること、調査票の作成においても、調査結果の読み取りにおいても、一人きりでは判断の適切性が揺らぐため、なるべく多様な視点を持ち、共同で調査に関する作業を協働することが有効であることなどについて講義があった。

＜当日の様子（写真）＞

【開会行事】 開会挨拶

県立図書館 館長 塩川 也寸志



【研修1】「家庭教育支援の在り方」

九州女子大学 大島 まな 教授



【研修2】 意見・情報交換

（家庭教育支援の取組）



【研修3】「調査データの読み取り方」

大分大学 岡田 正彦 教授



＜参加者感想＞

- ・来年度の家庭教育支援の事業計画に活かしていきたい。
- ・あらためて家庭教育について学ぶ機会がありよかった。
- ・データ分析について深く、活用についても学習したい。
- ・子供を「社会の宝」にするために、地域に働きかける方法についてもう少し聞いてみたかった。
- ・意見交換の時間がもっとほしかった。
- ・社会教育の行政職員と現場職員が気軽に意見交換できる場がほしい。
- ・非正規職員が増えている状況の中で、どのように重点目標を達成していくべきか日々考えている。